

## 長崎人が知らないアメリカ人がつくった「ナガサキ」

宮田 和夫

かつてアメリカには長崎にまつわるヒット曲がありました。タイトルもそのものずばり、「ナガサキ」なのです。みなさん、「存じでしたか？」

数年前、とあるアメリカ人フォーク歌手と電子メールのやりとりをする機会に恵まれました。その折、「ところでナガサキはそちらでも有名なのかな？」と質問を受けました。

正直、彼が何のことを尋ねているのか全く理解できず、私は英文をきちんと解釈できないのが原因と思ひこみ、あやふやな返事を書いて誤魔化しておきました。

昨年インターネットを使って調べものをしておりましたら、とある動画投稿サイトで偶然にも「ナガサキ」というタイトルの英語の歌を発見したので。そう、彼が私に尋ねていたのは、まさしくこの歌のことだったのです！

さらにネット上で調べてみますと、この曲が実に多くのアメリカ人歌手や楽団によって演奏されている往年のヒット曲であることがわかってきました。作曲されたのは1928年(昭和3年)。蝶々夫人の小説やオペラを通して、すでにこの時点で「長崎」という地名は、アメリカ国内でもある程度の知名度を得ていたようです。

オリエンタルな港町にまつわるヒット曲を狙った制作者の意図により、「ヨコハマ」でも「コウベ」でも「シャンハイ」でもなく、この「ナガサキ」というタイトルが選ばれたと想像されます。

当初はコットンクラブなどのニューヨークのクラブでよく歌われていました。取り上げた歌手の中にはトム・ボージャングル・ロビンソンなどの著名なエンターティナーも含まれていたようです。レコードに多く吹き込まれるようになったのは、1930年代以降のようです。



英国で発売されたアルバート・アモンズ演奏の「NAGASAKI」のレコード・レーベル。

特にウォーレンは「チャタヌガ・チューチュー」や「瞳は君ゆえに」等日本でもお馴染みのヒット曲を数多くてがけ、後年はハリウッドに移り映画音楽の世界でもその才能を開花させた著名な作曲家です。

歌詞の中の wicky wacky woo とはアメリカ人にとってはハワイアンダンスのイメージのようで、いくぶん性的なニュアンスが含まれているようです。ナガサキという港町には魅惑的な女性が沢山いて、訪れる男達はみな夢中になつてしまふというイメージでしょうか。

また歌詞の中の描写のように長崎の男性がかみ煙草をたしなむ習慣も当然無かつた訳ですから、おおよそディクソンには長崎に関する基礎知識が欠けていたものと思われまふ。そもそも歌の中に「フジヤマ 富士山」が登場するのですから！

それでも戦前のこの時期に、東洋の魅惑的な港町の象徴として長崎の名前が取り上げられ、アメリカでヒット曲になつていた事実を、是非ともこの機会に多くの長崎の人に知っていただきたいのです。

メロディーがなんとも底抜けに明るく、思わず踊り出したくなるようなすばらしい楽曲です。いまなお海外の演奏家に取り上げられ、時折CD化もされています。

この曲が長崎の街のBGMとして流れていたらどんなに素晴らしいだろうと、自分勝手に夢想しています。

ところで、「ナガサキ」がアメリカでヒットしていたまさにその頃、日本は国際連盟を脱退し国際的な孤立化の道を歩みはじめました。

そして十年も経たぬうちに、太平洋戦争が始まります。原爆投下地の選定の際には、私たちの街の名前はすでに「彼ら」の頭の中に記憶されていたはず。東洋のなんとも楽しげな港町として。「蝶々夫人」の悲恋の町として。そして原爆を投下したファットマンの搭乗員達も、もしかしたらこの唄を口ずさみながら、その任務を遂行していたかも知れません。この曲に関しては戦後またいくつかのエピソードが生まれました。それについてはまたいつか別の機会に…。(本会協力委員)

これは推測になりますが、1932年にケリー・グラント主演で「蝶々夫人」が映画化された影響があるかと思ひます。(ちなみにこの映画は翌年日本でも公開され、「お蝶夫人の唄」などのヒット曲も生まれました。)

演奏者の中には、当時絶大な人気を誇ったキャブ・キャロウェイやベニー・グッドマン楽団も含まれ、いかにこの曲がアメリカ国内で人気を博していたか想像できます。演奏者により一部歌詞が違う場合がありますが、おおむね左記の歌詞がベースになっています。

歌詞そのものはまったく特段の意味を持たない、コミックソングの一種です。作詞はモート・ディクソン。作曲はハリー・ウォーレン。

Hot ginger and dynamite There's nothing but that at night. Back in Nagasaki where the fellers chew tobaccy And the women wicky wacky woo.	ビリリと効いた生姜か ダイナマイトのようだ 夜といったらアレしかないじゃない 長崎にもどりゃ、野郎どもは囃みタバコをクチャクチャ 女の子はウィキー ワアキー ウーさ 奴らの楽しませかたといったら まるで台風みたいに急かされっぱなし
The way they can entertain Would hurry a hurricane. Back in Nagasaki where the fellers chew tobaccy And the women wicky wacky woo.	フジヤマで彼女が出来たりして けど、厄介事も増えるけどね パゴダで彼女はソーダを注文するよ 地震だ ミルクシェークだ一杯10セントなり
In Fujiyama you get a momma And your troubles increase. In some pagoda she orders soda The earth shakes milk shakes ten cents a piece.	彼女たちのキスや抱っこはもう最高 あつ、こりやまた値段分の価値はあるね
They kissee and huggie nice By jingo it's worth the price. Back in Nagasaki where the fellers chew tobaccy And the women wicky wacky woo.	宮田和夫訳

### 風信

○なでしこジャパンの人達に国民栄誉賞が贈られるとの事、明るい日射しが久しぶりに見えてきたようである。

○ところで「なでしこ」とは、どんな花ですかと言う。之に答えて毎週月曜、本会に花を持参して下さる久保美洋子女史、早速「庭に咲いていますから」と大和撫子の花を持ってきて下さった。

○加賀の千代女の句に「朝顔に つるべ取られて もらい水」というのがある。子供達に之の俳句の話をしたら「つるべえさんが何故、朝顔に水をとられたのですか。」と言う。

○今年も名古屋の相山女学園より長崎の歴史文化研修のため、十一月十五・十六日を中心に二班にわけて四百人が来訪するので、其の準備として同校の谷口・服部両先生を中心に五名来訪あり。当日は本会よりも餅田・山口各理事他出席。各コースについて意見を交換、案内役をお引き受けする事にした。

○九月と言えば「秋のお彼岸」である。彼岸の語源については前回にも記したが、サンスクリット語《梵語》の Pariman tiram を語源とし「向う岸」の意味である。川柳にこの言葉をもじって「彼岸会にゴケが詣ってハラミッタ」と言っている。

○今年の秋の彼岸は九月二十日より二十六日までとし、「暑さ寒さも彼岸まで」と記してある。長崎では彼岸がすぎると「もうすぐクンチですね。」と挨拶する。○今月は来訪者が多かった。広州暨南大学より小園晃司先生他「安政の開国後に於ける長崎中国人街」の研究。映像家大隈孝二氏「長崎に於けるフランス」等々。続いて市内の各氏より精霊船の事、長崎クンチの事等々の問い合わせが多かった。

○十八銀行発行「ながさき経済八月号」掲載の「長崎県内留学生アンケート調査」は各方面より注目された論考であった。その内容より少し紹介すると

一、今年度県内受入の留学生は一、四二六人「内中国人・六〇五人(七六・五%)」上記出身地「遼寧省・二八八人(二二・二%)、福建省・二〇二人(二六・九%)、山東省・九二人(二五・二%)」男女別では五七・二%が女性で、女性の留学生が多かった。

○日本に留学し苦労した事についての質問については、「一番・物価が高い。二番・日本も交流を希望しますか」、「長崎県内で就職をする際に不安に思う事。」「卒業後の予定」などとのアンケートがあった。

(十八銀行本店内・長崎経済研究所刊)

長崎歴史文化協会研究室

TEL 八二二一五四〇  
十八銀行公会堂前出張所 二F

